

平成28年度第2回千葉市若葉区公民館運営審議会議事録

1 日 時 平成29年3月23日（木）15時00分～16時25分

2 場 所 千城台公民館 セミナー室

3 出席者 （委員） 13人中11人

内山委員長、大澤副委員長、猪野委員、深山委員、成田委員、江崎委員、
横田委員、森谷委員、山田委員、但田委員、近藤委員
(事務局)

高石館長（千城台公民館）、達可館長（更科公民館）、菊池館長（白井公民館）
深山館長（加曽利公民館）、押尾館長（大宮公民館）、中村館長（みつわ台公民館）
高宮館長（若松公民館）、鈴木館長（桜木公民館）、桜井副館長（千城台公民館）
山本主査（千城台公民館）

4 議 題

（1）平成29年度若葉区公民館の事業計画案について

（2）その他

5 議事の概要

（1）平成29年度若葉区公民館の事業計画案について

各公民館長より、平成29年度の若葉区公民館の事業計画案を説明し、承認された。

（2）その他

高石館長より、千葉県公民館研究大会について概略を説明し、山田委員より、平成28年度千葉県公民館研究大会の参加報告がなされた。

6 会議経過

（1）議題1 平成29年度若葉区公民館の事業計画案について

（山田委員）各館の事業計画を聞いて、みなさんが努力をされているのが分かりました。特に「学習成果を地域に還元する事業を展開する」という重点を置かれている千城台公民館をはじめとして、他の館の方々も、サークルの方や地域の方や区健康課などのつながりを使って講師の方をお願いしていることが、すばらしいと思いました。いくつかお尋ねしたいことがあり、まとめてお聞きしますので、一つ一つではなく、まとめて回答をお願いします。

まず、公民館だよりについて、ほとんどの館が発行しているようなのですが、計画に載っていない館もあり、発行するかしないかとか、どこに配布するかということは、各公民館の裁量なのか。ということと、職員の方が作っていら

っしゃると思いますが、例えば、パソコンクラブとか、パソコンの講座を受講して上手になった方が編集を担当してみるとか、などの市民参加で作る試みをやってみたらどうかと思うのですが、ご見解を伺います。

2つ目に、地域住民の学習要求に応じた事業の実施というのが経営の重点に入っているところが多いのですが、学習要求の把握というのは、どのような形で把握されているのか、伺いたいと思います。講座を実施して人気があったから、ということもあるとは思いますが、やはり地域にも特色があって、地域課題解決のための企画というのが必要だと思うのですが、そういったものを住民と一緒に考える場があるのかどうか、伺いたいと思います。

3つ目は、子どもさん向けの企画が本当に盛りだくさんありますが、高校生・大学生や20代などの若い世代の利用について、どのようにお考えなのか伺います。もし、関わっていただいているのであれば、どのような工夫をしているのか伺いたいと思います。

(高石館長) 公民館だよりにつきましては、基本的には、各館が発行や配布先などを決めていると思います。作成を市民参画でということについては、公民館だよりの内容が、「こういうことをやります。」といったお知らせ的なものであったり、「こういうことをやりました。」という報告的なものであるので、どうしても職員サイドで作成するものになってしまう、と思っております。レイアウト等については、パソコンに長けた方がいれば、そういった方をお願いすることも一つの方法かと思うのですが、現状は、職員が作成することになってしまうというところ です。

学習要求の把握については、実際に講座等を実施してみて反応を見るというのが一番だと思います。職員に対して「よかった」とか「来年もお願いします。」と声をかけていただいたり、生の声が一番の把握方法だと思います。それから、アンケートを各主催事業では取っており、そこでのご意見を踏まえて、次の事業を展開していくということです。地域の課題について、公民館として聞くという場はなかなか無いのですが、行政機関として、千葉市の取り組んでいる課題を常にリサーチできる立場にありますので、それらを見ながら、各館で工夫して、今年度は、そこを重点的に取り組んでいこう。としていると思います。それから、高校生とか20代とか若い世代というのは、なかなか公民館には来ていないというのが現実ですが、小さいお子さんを持っている方などには、公民館が役に立てる場があるのかなと。実際そのような子育て中の方々への取り組みもなされており、そういったところから徐々に公民館に足を運んでいただ

けるようにしていけたらと思います。

(押尾館長) 公民館だよりの特徴ですが、近隣町内自治会のご協力をいただいておりますので、自治会が回覧しやすい大きさのA4タイプが無難ではないかと思います。公民館がお知らせしたい内容を盛りだくさんにしてしまうと、カットも少なくなりますし、さっと見て、さっと情報が分かるように、これから行う行事の紹介や結果の報告などを文字数を絞った範囲の中で伝えていくというのが現状なのかと思います。その中で、(紙面の) コーナー分けをして、公民館とそれから図書室がありますので、推薦図書の紹介等の2つのコーナーが限界なのかなと思います。

(中村館長) みつわ台公民館では、「こどもニュース」を発行しておりまして、現物を持ってきましたが、これを管轄内の3小学校の全児童に学校を通じて配布をお願いしています。毎月発行しており、育成委員会の事業と公民館の事業を掲載しています。部数は、年間で13,000部を発行していて、小学生の家庭を通じて公民館活動のPRや、育成委員会の事業のPRをしています。

(山田委員) ありがとうございます。公民館だよりの作成は、すごく大変だとは思いますが、すごく大事な情報で、日頃から目にしていることで、いつかは公民館へ行こうかな、という気持ちも芽生えると思いますので、ぜひ参考としていただいて、子どもがいない家にも届けていただければと思います。

課題解決のための企画についてですが、やってみて反応を見るということは大事なことだとは思いますが、公民館を使ったことの無い人に公民館に来てもらうという点も考えていただいて、やっていただけると。と思います。

若い方の利用は、すごく難しいのは私も想像が付きましますので、いろいろ工夫しながら、他の公民館の実例も参考にしながら、よろしくお願いします。

(内山委員長) 各館長さんは、大変かとは思いますが、若い方々が公民館を使うようにご努力をお願いします。

(高石館長) はい。

(大澤委員) 各公民館が、大変工夫されて、色々な盛りだくさんの事業を考えてくださって感謝いたします。子育て中のお母さんから、小学生、中学生、成人、シニアの方と様々な方を対象にしていらっしゃいますが、小学生は割と多いのですが、中学生の参加は、なかなか難しいと思います。中学生自身も部活動で、大変忙しいので、公民館で事業を計画してもなかなか参加してもらえないのが実情だと思います。その中でも、更科公民館と白井公民館については、小中学生を対象とした事業を計画していますが、中学生の参加率というか、どういう状況な

のか、うまくいっているのか、というところをお聞きしたいと思います。

(達可館長) 中学生は対象とはしていますが、やはり、小学生に比べて少なくなっています。

親子パンづくり教室は、参加する中学生は、兄弟関係で（小学生の兄弟姉妹がいる場合）2～3人です。小学生は、もっといますが。

自然観察教室は、今年は無かったのですが、昨年、一昨年は、やはり小学生のほうが多かったです。講師の先生が更科小学校で先生をやっていた方なので、その先生の関係で中学生も来ていたようです。来年度も、沢山来てくれることを望みます。

(菊池館長) 中学校との連携で、主催事業の案内を中学校にも送っていて、講座の申し込みがあったこともあるのですが、部活が入って前日にキャンセルになるなど、ほとんどキャンセルだったので、中学生を対象にはしたのですが、参加は無かったというのが現状です。

白井公民館は、部活が終わってからロビーで母親を待っていたり、土曜や日曜日に来て、空いている部屋で自分たちで学習したりする場には、なっています。

(山田委員) 14ページの公民館利用状況の棒グラフについてですが、左右を逆にして、左側が前年度で、右側が当年度の方が見やすいと思います。

(高石館長) その点については、改善していきます。

(山田委員) 15ページの図書室の整備状況の中で、新聞については、どこの公民館も1種類となっていますが、どの新聞を購入するかは、各公民館が独自で決めるものなのか、館ごとに分担して別々の新聞を購入するようにしているのでしょうか。

(高石館長) 図書室のある公民館の判断で購入しています。

(山田委員) 予算の関係もあるとは思いますが、1種類というのはどうなのかなと。

(高石館長) 各紙を見たいということであれば、例えば図書館とかに行っていて、比較しながら読むということは可能なので、公民館としては予算が無い中で、これが限界なのかなと思います。

(横田委員) 中高校生の参加についてですが、先ほど、みつわ台公民館の館長さんがお話されていた「みつわ台こどもニュース」を中学生にも配っていた時期もあったのですが、現実には、中学生は連日の部活と練習試合で追われていて、とても公民館へ来てくれません。

ただし、みつわ台では、毎月、算数教室をやっているのですが、小学生時代に算数教室に通っていた子どもたちが、今、高校1年生になって、2人手伝いに来てくれていて、中学生もそれを見習って、男の子たちが手伝いに来てくれてます。

忙しい子どもたちに、こちらが良かれと思って企画しても参加できない。部活が半分にならない限り来られないと思っておりますので、それよりも、この時期に、地域には公民館というものがある、ということ子どもたちに知ってもらい、大人になった時に「公民館」という言葉を読んだ時に「行ったことがある。」と思い出してもらえることが、将来的な公民館の利用者につながってくれるのではないかと願っております。

(2) その他 平成28年度千葉県公民館研究大会の参加報告

(山田委員) 昨年11月25日に開催された「千葉県公民館研究大会」に参加させていただきました。来年度は、千葉市で開催されるということなので、委員の皆様も参加されると良いと思います。

研究大会は、全体会と分科会で構成されていて、分科会は自分の関心のあるテーマに参加できるようになっています。私は、「若い世代の参加を中心とした地域づくり」というテーマの分科会に参加しました。

3つの事例が発表され、袖ヶ浦市では、成人式を公民館で行っており、そこに参加した若者が「何かお役に立ちたい」と発言したことから、それをきっかけに夏休みに子どもたちが参加できる企画を若者が考えたり、地域の人が協力して企画を行っているとのことで、小学生の3～4割の子どもが参加しているとのことでした。千葉市も、成人式を中学校区で行ったらよいのではと思いました。若い人たちの中には、地域のために役に立ちたいと思っている方もいるので、きっかけづくりが出来ればと思いました。

習志野市では、「ユースリーダー養成講座」を企画したところ、チラシを配っても参加者ゼロで、SNSを通じて、大学のボランティアサークルの参加が得られたとのことでした。

市原市では、最初から若者を対象としていたわけではなかったが、中心市街地の空洞化に歯止めをかけるため商工会議所の協力で起業塾を企画したところ、若者が参加した、との話でした。商工会議所も公民館とコラボ出来るということを知りました。

このように、他の自治体の事例は、すごく参考になるので、委員の皆様も研究大会に参加されると良いと思いました。来年度、千葉市で開催するとなると、職員の方は、研究大会を開催することにはかなりのエネルギーを使うことになると思いますので、発表の中身を聞くことは、公民館運営審議会の委員が行って、聞いたことを職員の方と共有することが良いのではないかと思いますので、審議会場で報告させていただきました。

(問い合わせ先) 千葉市教育委員会生涯学習部

千城台公民館

電話：２３７－１４００